

自分を信じて

高野山中学校 三年 岸本 杏都

小学校 一年生の春、デイズニーランドでショーを観た日から、私の夢はテーマパークダンサーになることだった。

「なりたくない。でもなれるかな。」と夢に自信を持ってずにいたが、去年の秋、ある出来事をきっかけに「絶対になってみせる」と強く思うようになった。

私に通っているダンススタジオでは二年に一度大きな発表会がある。発表会は三部構成で、三部では毎回テーマに沿った曲を踊る。去年のテーマはテーマパーク。特別にテーマパークダンススタジオの人達がゲスト出演することになっていた。彼らの舞台を楽しみにしていたある日、先生から「ゲストの人達と一緒に踊らない？」と声をかけられた。プロに囲まれてのダンスだ。けれど、私は「考えさせてください。」としか答えられなかった。理由は五回のレッスンで覚えられるか不安だったことと、「テーマパークダンスは自分に合っていないのではないか。」と自信を無くしていたからだ。ジャズダンスとバレエ両方の技術と、高い表現力が必要とされるテーマパークダンスを、私は練習で上手く踊れていなかった。

帰宅後、母に話すと、母は

「そんな機会は滅多にないし、あんたの夢であるテーマパークダンス踊れるんやで。経験はたくさん積むといい、踊り！」

と言ってくれた。不安ながらも踊ることに決めた。

レッスン初日、先生から

「ワンマンズドリームを踊ります。」

と発表があると、周りから

「ワーツ」

と歓声が上がった。そう、ワンマンズドリーム、通称ワンマンはデイズニーダンサー誰もが憧れるショーであり、ワンマンこそ私が小学一年生の時に見たショーだった。

初回レッスンでの振り付けはとても難しかった。レッスン中、できない自分への腹立たしさと焦りが募り、頭の中がごちゃごちゃになってきた。

家に帰り、レッスン時の動画を観ると、一回の振り入れで全てを覚えるメンバーに対し、テンポがずれて振り付けを覚えられていない自分が嫌な程目立っていた。動画は一回観るだけで精いっぱいだった。

翌日、もう一度動画を観た。心の中がざわつくのを感じた。このまま自分が作品を台無しにしてしまったもいいのかだろうか。突然感じたこの気持ちをきっかけに毎日自主練に励んだ。不安だった振り付けを最後まで覚えることができた。この時、気づいた。私は努力もせずに相性を踊れない言い訳にしていただけだった。今までの自分が馬鹿らしく思えた。努力は嘘をつかないというのは本当だ。そのことに気づいてからワンマンを踊ることは楽しくなった。練習を重ね迎えた当日。出番が来た。深く深呼吸をして舞台に立つ。最後まで踊りきった。楽しくて堪らなかった。初めてテーマパークダンスを踊ることが好きだと思った。本番後、先生から

「よく頑張ったね。ここまで成長すると思わなかった。」

と声をかけていただいた。胸がいっぱいになって、涙が止まらなかった。この時、私はテーマパークダンサーになると強く思った。

もし、先生の誘いから逃げていたら、もし、母に背中を押してもらってなかったら、きっとここまで強く思うことはできなかった。

今回の体験から分かったこと、それは、何事も恐れずに挑戦し、諦めずに努力することだ。ウォールドデイズニーはランド建設企画を302回断られたそうだ。ワンマンの歌詞には、彼の言葉が入っている。

『夢を見ることができるなら、それは実現できるんだ。いつだって忘れないでほしい。何もかも全て一匹のねずみから始まったということ。』

私は、ダンスを通して、自分を信じる気持ちの大切さを伝えていきたい。私の夢はもう憧れではない。テーマパークダンサーになるという目標を達成するため、私は、努力し、挑戦し続ける。自分を信じて。